別紙3　　令和5年度　　学校関係者評価書　　作成日:10月31日　国分寺市立第四小学校　　校長名　大　島　　晃

教育目標: ○ゆたかな心で　じょうぶな子　　◎自らよく考えて　やりぬく子(重点目標)　　○みんなで　協力しあえる子

目指す学校像: 1心が響き合う学校　2学ぶ喜びがあふれる学校　3力がみなぎる学校　4互いに結ばれている学校

目指す児童・生徒像: 1よく考え伸びようとする子　2心優しく支え合おうとする子　3すすんで心身をきたえようとする子

目指す教師像: 1自らを高めるとともに、互いに高め合う教職員　2教育論をもち、児童の育ちを語れる教職員　3確かな人権意識をもつ教職員　4経営参画意識をもつ教職員　5教育公務員としての自覚をもつ教職員　6学校・地域を愛せる教職員

領域	中期目標	短期目標	具体的方策	努力指標（中間）	努力指標（最終）	成果指標（中間）	成果指標（最終）	改善策	学校関係者評価記入欄
豊かな人間性の育成	人権教育の充実 道徳教育の充実 生活指導の充実 体験的活動、表現や鑑賞活動の充実	全教育活動を通して、いじめ防止教育の充実に努め、命を大切にし、互いの人権を尊重し合う態度を育てる。	「いじめ防止基本方針」に則り、年間を通じていじめ防止教育を徹底し、いじめの兆候を見逃さず、一人ひとりの児童理解に基づいた指導の充実を図る。	3		4		引き続き、いじめに関するアンケートを活用する。児童理解に努め、日々の様子をよく観察し、変化が見られる児童には、すぐに声をかけるようにする。	事実を知らずに誤解からトラブルになるケースがある。大人の適切な介入が必要。 子どもたちが夢や希望をもてるように、教師が体験を語ることも良いのではないか。
		基本的な生活習慣の確立を図り、自分自身で自他の安全に配慮して行動しようとする態度を育てる。	「返事・あいさつ・後始末」を合言葉に、生活指導を徹底する。「四小生活スタンダード」を改善、指導の充実を図る。	3		4		教員が率先してあいさつをする。月目標と照らし合わせた指導をして意識を高める。月間の生活目標を児童から見える位置に掲示し、月初に全体で確認していく。	来校者へのあいさつ等、学校ではできているように感じる。地域の中でできるかどうか。 親も含めて大人からあいさつをしている。 ちょっとした機会を捉えてあいさつを。
確かな学力の定着	基礎的・基本的事項の徹底 授業の充実を図るための授業改善 読書活動・プログラミング教育の推進	児童一人ひとりが「わかる、できる、つかえる」ことを実感できる授業の実践し、児童の自己肯定感を育てる。	授業のねらいと振り返りを全授業で行い、児童一人ひとりが「わかる、できる、つかえる」ことを実感できる授業の実践し、児童の自己肯定感を育てる。	4		4		内容を理解できなかった児童には、個別指導を行い、安心して次の学習に取り組めるようにしていく。ICTを取り入れ、個別最適化を意識し学習を進めていく。	今、学んでいることが実生活でいかせているという実感をもたせることが大切だと思う。 学んだことが活用できたときに、それに気付かせる言葉掛けを大人がしていきたい。
		自ら学び、自ら考える活動の日常化を図る。	学習活動においてICTを積極的・効果的に活用し、情報活用の基礎および実践力、ルールや科学的な理解を図る。また、朝読書や読書旬間を設け、読書活動の習慣化を図る。	4		3		学習道具の一つとしてICTを使えるようにしていく。また、著作権や情報モラルも引き続き指導する。低学年は読書活動の時間を確保する。高学年は、隙間の時間などに読書活動を多く取り入れ、習慣化させる。	個人差がある子どもたち一人ひとりに最適な指導を進めることが大切である。 読書は重要だが、自分の考えを文章で表現できることも重要だと思う。
たくましい心身の育成	健康教育の積極的な推進 体育活動の日常的実践を推進 安全教育の推進	食育を計画的に実施し、食への関心を高める。	給食指導や会食会を通して、食や健康に興味をもち、よりよい生活を送ろうとする態度を育てる。	3		4		食材に関わる体験活動、お楽しみ給食会や家庭科で栄養について学習したことなどを、普段の給食指導にもいかしていく。	体験活動やお楽しみ給食会ができるようになって良かった。子どもたちも楽しみにしている。
		体育指導の充実	「遊ぶ、かかわる、高める」を合言葉に、自ら体力を高める児童の育成に取り組む。自他の安全に目を向け、自ら危機を回避し、行動できる資質や能力を育む。	3		3		校庭の使い方や遊びのルールを指導し、休み時間の校庭遊びを推進する。体育や休み時間、行事を通して積極的に体を動かしていけるよう環境づくりをしていく。	公園で遊んでいる子が少ない。公園をもっと活用してほしい。カードやゲームを公園でやっている子もいる。
学校・家庭・地域の連携強化	特色ある教育活動の充実	「四小国分寺学」として地域に親しみ、学び、貢献する授業を推進する。	「四小国分寺学」として、史跡等の地域環境や地域人材を活用した、地域に親しみ、地域に学び、地域に貢献する授業を推進する。	3		4		国分寺について学んだことを広く発信していくことを意識させ取り組んでいく。また、国分寺学を通して、地域に愛着をもつ心を育てていく。さらに地域人材の活用の充実を図っていく。	国分寺に誇りをもっている卒業生も多くいる。国分寺学の取組について、地域との連携を更に強めて欲しい。
	家庭・地域との連携及び協働を推進	家庭・地域と互いに手を携えた安全管理の徹底を図る。	義務教育9年間を見通した「四中ブロックスタンダード」を学校・保護者・地域で共有する。	3		3		「四中ブロックスタンダード」の内容を確認し、系統的に指導をする。また、国分寺学を活用して義務教育9年間を見通した教材研究をしていく。また、保護者会や通信等で保護者にも啓発していく。	家庭や地域の教育力が低下している。学校と家庭・地域が連携していくことの必要性を感じる。 関わることは大変ではない、という意識で進めていきたい。まず一歩から。